

平成29年度 倉敷教育センター第2回運営委員会 会議録

1 日 時 平成29年12月19日(火) 14:00~16:00

2 場 所 倉敷教育センター研修室

3 出席者

・委員(15名)

委員長 川西 隆

副委員長 名越 俊明

委員 綾部千枝子 中田 和子 西田 恵介
寺岡 直樹 西 千秋 溝手 恵里(欠席)
武井 祐子(欠席) 白神 繁子 石井 二郎(欠席)
樋口 尚司(欠席) 松崎 晃 坂田 範子(欠席)
小原美由紀

・事務局(7名)

市教委指導課 課 長 笠原 和彦

教育センター 館 長 藤井 朗

指導主幹 稲田 修一 中桐 雅子

指導主任 村中 千春 池田 真弓 森廣 隆之

4 説明及び協議

1 平成29年度事業実施状況及び平成30年度事業計画

(1) 研修講座

○事務局より説明

○協議

委員 6月21日に実施された幼児教育研修会では、幼稚園教育要領の改訂について、大変分かりやすい説明をしてくださったので感謝している。また、夏休みに開催された園長研修会、主任研修会、幼稚園教諭・助教諭研修会では、今までは幼稚園と倉敷教育センターとの共催であったが、幼稚園現場の業務削減の観点から、本年度から倉敷教育センターの主催にしてくださったので、大変ありがたかった。さらに、8月9日と12月1日に開催された特別支援教育に関する研修会は大勢の方が参加されていたが、8月9日の研修会は、倉敷市公立幼稚園・こども園教育研究会主催の幼児教育講演会と同じ日であった。12月1日も園長会があり、ぜひ聞きに行きたかったが参加できず残念だった。本年度の研修予定を各幼稚園に早めに伝えればよかったと反省している。

事務局 指導課と連携を密にとりながら研修の企画運営を行っているが、お褒めの言葉をいただきありがたく思っている。今後の課題は、現場の先生方のニーズを受け止めてどのような研修内容を組み立て

ていくかということであり、これからも頑張っていかなければならないと思っている。

委員 研修の対象に認定こども園と明記されていたが、認定こども園からの参加者はどれくらいいるのか。

事務局 幼稚園で採用された教諭で、現在認定こども園で勤務している先生はかなりの人数が研修に来ている。認定こども園には、保育園籍の先生も勤務しているが、その方々の参加については少ない。

委員 研修内容が丁寧に組まれていて、ニーズによく合っている。計画を立てるのに大変な御苦労があったと思う。

委員 5年経験者研修を廃止して3年目研修の時間数を増やす件についてだが、3年目研修は後補充の先生がいないので、学校現場からすると困るのではないか。3年目としてどうしても必要な研修だけでよいと思うがどのように考えているか。授業日ではなく夏休みに研修を固めるということはできないのか。また、新任教務主任研修について、学校に一人しかいない教務主任が研修に出て行くことは、学校運営上厳しいと思う。新しい研修内容を立ち上げたら、どこかを削っていくということも並行して行っていくべきではないか。

事務局 3年目研修は御指摘のとおり後補充がないので、全て半日日程にするとともに、なるべく午後日程で組んでいる。また、5年経験者研修の廃止に伴い、それを補充するために3年目研修が2回増えている。小学校では、全ての教科を初任者研修で行うことが難しいため、研修機会の少ない芸能教科を3年目研修に設定している。

事務局 初任者研修から15年経験者研修までの経験年数別研修の見直しだが、働き方改革という視点から全体として6日分減らしている。受講する教員の負担を減らして子どもと向き合う時間を確保しながら、内容をより充実するように再編に取り組んでいる。

事務局 倉敷市ではここ10年で20代を中心に850人といった大量の教員が採用されている。その教員をどのように育てていくかが課題である。2年目研修・3年目研修・中堅教諭資質向上研修の内容を、働き方改革の視点からもよりブラッシュアップをしながら、教員の資質向上を図りたい。

(2) 適応指導

○事務局より説明

○協議

委員 大学ともよく連携され、教育指導員が川崎医療福祉大学等で研修を行い、児童生徒の指導・支援に生かしていることがすばらしい。進路調査によると、不登校の子を支え、高校へつなぐことは、本人だけでなく保護者も学校も大変厳しい。倉敷教育センターからも進路の情報や適応指導についてさらに情報発信をしてほしい。

委員 市立定時制A高校の7割程度の生徒が不登校経験者である。生活習慣が昼夜逆転をして、人と出会うことを苦手としている生徒に

は、夜間定時制が向いている。不登校の生徒はとても感受性が強く、特定の能力が高いことがある。学校に行くことができていることが一番つらく、行くことができるようになると本当にうれしそうに学校に足を運ぶようになる。生徒に余裕が出てくると、進んで学級委員になったり、アルバイトをしたりするようになり、学校外においても社会教育を受けることができている。指導の際に大切にしていることは、「社会の片隅ではなく、真ん中に子どもたちを返していく。」という気概である。

委員 保健所のメンタルケアは、就職後に挫折したような人を対象としていることが多い。現在「メンタルホットライン」という冊子を作っており、相談機関等が掲載される予定である。来年度作成予定のものだが、ぜひ関係機関の皆様には手に取ってほしい。今後も関係機関の力を借りながら連携して頑張っていきたい。

委員 校長の役割は、不登校の親の気持ちを少しでもほぐすことである。進学が親にとっても子にとっても高いハードルである。市立定時制A高校の話の聞き、目からうろこだった。子どもに少しでも自信を付けさせ、意欲をかきたてるようにしていきたい。特別支援学級に在籍する生徒の親も子育てについて悩んでいる。親も働きに出ているので、夜に相談できる機関はないのだろうか。子育ての相談機関はどこにあるのかを教えてくれる窓口があればいいのと思う。

委員 市立定時制A高校で2年前に授業を見せていただいたことがあるが、本当に細やかな配慮をされていた。不登校については、保護者支援も必要であると思った。関係機関との連携の大切さを感じるとともに、教職員も情報収集をしないといけないと思っている。

(3) 教育相談・教育情報の収集、提供

○事務局より説明

2 その他

事務局 倉敷教育センターの教育相談の周知・徹底をしなければならないと思っている。倉敷教育センターでは子どもだけでなく、教員対象の相談もしている。校園長会でも改めて周知する予定である。

委員長 川西 隆



副委員長 名越 俊明

